

氏名	市川晴夫
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第3192号
学位授与の日付	平成10年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Signal averaged electrocardiography(SAECG) in patients on hemodialysis (血液透析患者における加算平均心電図の検討)
論文審査委員	教授 大江透 教授 辻孝夫 教授 菅弘之

学位論文内容の要旨

【目的】心不全、心筋障害、不整脈等の心血管系合併症は慢性維持透析患者の予後を左右する最も重要な合併症である。我々は維持透析患者に加算平均心電図(SAECG)を記録し、その臨床的意義について検討した。

【対象・方法】維持血液透析患者42例を対象とし、SAECGは透析開始直前、終了直後の2回記録した。SAECGはART社製LVP101を用い、filtered QRS duration (FQRS;msec)、under 40 μ V duration (LAS40; msec)、last 40 msec RMS voltage (RMS; μ V)、の3項目をlate potential (LP)の指標とした。透析前後のSAECGの各指標の変動と、透析前後での血液生化学検査値および透析による体重変化率を比較検討した。

【結果】FQRSは透析後に有意に増加し、LAS40も増加の傾向を示した。対象42例中、血液透析前はLP陽性例は皆無であり、1例がabnormal SAECGを呈した。透析後は3例がLP陽性、他の3例がabnormal SAECGを呈した。透析前後での血清カリウム値の変化量と透析前後でのLAS40の変化量とが有意な相関を認めた。

【結論】透析患者では血液透析によりカリウムをはじめとする電解質の変動が起こり、心室性不整脈の基質となる電氣的不安定性および伝導遅延が一過性に惹起されていることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は血液透析患者の透析時の心室伝導傷害を加算平均心電図を用いて研究したものであるが、従来十分確立されていなかった透析時の心室伝導障害に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。